



佐倉千葉転 千葉県準決勝進出なる！ (津田沼・木更津再試合)

日刊
動労千葉

83. 6. 10

No. 1361

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)一九三五)六・(公衆)〇四七二二二七〇七

澄みきつた青空の下、六月二日、83春季野球大会が、十一支部、一六〇名が参加して行われました。九時十分より千葉市公園球場において開会式が行われ、本部関川委員長より「本日の野球大会に全力を尽し、動乗勤改悪をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃をはね返すための銳気を養つてほしい」とのあいさつをうけ、津田沼支部・鎌田選手の選手宣誓の後、Aブロック・公園球場、Bブロック・更科球場の二球場で熱戦がくりひろげられました。

Aブロック・公園球場の試合結果

△第一試合▽

佐倉	2	5	6	—	0	1	3
幕張	0	0	0	—	3	回	コールドゲーム

佐倉、一回表二点、二回表、根本、大竹の長短打などで五点、三回表四球、エラー、ヒットを連らねて六点、合計十三得点とし、守っては小林投手が三回まで七三振を奪う力投で寄せつけず、三回コールドゲームとなつた。

△第一試合▽

津田沼	0	1	0	0	0	0	5
勝浦	1	0	2	0	0	0	6

勝浦一回裏、エラーを足場に一点先取、二回表、津田沼も石川の二塁打、江沢のヒットで同点とし、たが、勝浦三回表、ショートゴロエラーに続き内野の守備の乱れに乗じて田中のヒットで二点を先攻する。

田中、鈴木の継投で二回以降押さえられていた津田沼、最終回庄司のヒットと死球とエラーで一死満塁とし、関の二塁打と古川のヒットで五点をとり大逆点勝ちとなる。

△第三試合▽

佐倉	0	1	1	1	0	0	1	—	1	4
蘇我	0	0	0	0	0	1	0	—		

佐倉、笠井の本塁打など長打力を発揮し、こきざみに四得点をあげる。守っては小林投手が六回に川名の三塁打で一点を失つたが、十三三振を奪う力投で完勝、準決勝進出を決める。

△第四試合▽

木更津	0	1	0	0	0	0	0	—	1	1
津田沼	0	0	0	0	0	0	1	—		

木更津二回表、田辺の三塁打とボーグで先攻、田辺の好投で六回まで津田沼を〇点に押さえたが、最終回二死二、三塁に投ゴロをエラーし同点とされ好投をフイにして、同点とされ好投をフイにして、

Bブロック・更科球場の試合結果

△第一試合▽

成田	0	0	2	0	7	—	9	五回
館山	2	0	0	0	0	—	2	コールドゲーム

一回裏、館山、二死から三瓶の三塁打と近藤のヒットで二点先攻するも、三回表、後藤投手の不調で連續四死球の押し出しと犠打で同点とされ、五回も連續四球で満塁、成田小守の三塁打などで大量七点を許し、コールド敗けとなる。

△第三試合▽

千葉転	0	0	0	0	0	0	4	0	—	4
新小岩	0	1	0	0	0	0	0	—		

二回裏、新小岩、四球とエラーで一点先取・松本投手の好投で逃げきるかにみえたが、六回表、千葉転、守備の乱れと四球で満塁とし、高橋の二塁打などで一挙に四点を取り逆点、以降、中村投手が無難に押さえ、勝利をものにした。

